

2016年3月8日掲載

口臭の分類と治療

悩む前に受診が大切

私たちが時として気にしたり、悩むことの中に「口臭」があります。

歯科では、口臭を真性口臭症、仮性口臭症、口臭恐怖症の3つに分類しています。仮性口臭症と口臭恐怖症は口腔（こうくう）内に器質的な病態がなく、カウンセリングや指導、心療歯科などにより治療しています。

真性口臭症は、生理的なものと病的なものに分類されます。生理的口臭は寝起きや緊張、ストレスを感じたとき、唾液の分泌が低下し、口腔内細菌の腐敗作用により発生するもので、歯みがき、舌清掃、水分補給により改善されます。器質的な病態がある病的口臭の場合は、全身由来なものと口腔由来なものに分類されます。

全身由来のものには、副鼻腔（びくう）炎、扁桃（へんとう）炎、扁桃のくぼみにできる膿栓など耳鼻咽喉の疾患が主な原因となります。

他に糖尿病、腎臓系疾患、肝炎、便秘、消化器・呼吸器系の疾患が原因となりますが、それほど多くはありません。

歯科では主に口腔由来の真性口臭症の治療を行っています。歯垢や歯石の付着、多量の舌苔（ぜったい）の付着、歯周病、進行したむし歯、義歯の清掃不良、口腔がんなどの粘膜・舌の疾患、ドライマウスなどが主な口臭の原因となっています。

悩む前に歯科を受診し、診断と治療を受けてみるのが大切です。